

平成30年度第4回理事会会議録

日 時 平成31年2月18日(月) 19:00～20:40
場 所 鹿児島女子高等学校セミナーハウス
出 席 末永, 隈本, 中原, 木佐貫, 鮫島, 中曲瀬, 米澤, 濱田浩, 鶴留, 伊藤, 小園, 濱田久, 原田, 福寄, 尾前
委 任 上大田, 諸岡, 力久, 土器屋

議 題

1 協議事項

(1) WJBL収支について

事務局より、収支決算の報告があった。観客が少なく、収入が伸びなかったが、トータルでは黒字となった。

(2) D-fundについて

木佐貫専務理事より、D-fundによるJBAからの収入が大幅に減額となる見込であることが報告された。また、D-fundによる事業の報告や、進行を速やかに行い、見直しをもった活動を行うように要請があった。

(3) 国体に向けての協賛金について

木佐貫専務理事より、インターハイ・国体・全国障害者スポーツ大会に向けての協賛金を各チームより募りたいとの申し出があった。

ア 協賛金方式だと、協力するチームとしないチームが出てくる可能性がある。

イ 協賛金等が難しい場合は、現在の予算範囲で大会を行う方法もある。

ウ 各チームに限らず、企業からの協賛金を募る方法も考えられる。

エ 大会参加料を上げることで、協賛金として見込んだ分の金額を補うことはできないのか。

オ 新たに登録する社会人のカテゴリーには、どのように説明をしていけばよいか。

カ D-fundに申請しても十分な予算が下りてこないことがある。

キ 審判委員会、強化委員会から予算が足りず、協賛金について賛成の意見が出た。

以上の意見を踏まえ、インターハイ・国体・全国障害者大会の成功のために、協賛金を募ることが決定した。今後、理事会として一枚岩で取り組むこととした。

(4) 2020国体・障害者スポーツ大会について

ア 2019, 2020国体に向けて、県からの

イ 強化指定チームについて、U-16は、チームを中心に強化資金が支払われることになった。

ウ 選手獲得についての報告があった。成年、U-16カテゴリーともに、県内での強化を図るために進学、就職等に向けて専務理事を中心に行動していくことが確認された。

エ 審判とテーブルオフィシャルについては、審判S級の誕生など、目に見えて成長している。今後も引き続き強化を図っていく。

オ 障害者スポーツ大会については、山元氏を中心に準備を進めている。

カ 3月17日の鹿児島レブナイズのホームゲームを、県と協力したイベントになるように準備していく。

キ 特に成年女子については、鹿屋体育大学に加えて、選手の獲得を図りたい。情報があれば教えて欲しい。

(5) U-15プレ大会について

ア ジュニアオールスターに替わる大会として全国U-15バスケットボール選手権大会が始まる。プレ大会として2020年3月に開催される大会に出場するチームを決定する県予選の計画が示され、承認された。

(6) 広報委員会より

ア ホームページの管理費、大会の結果掲載料について今後管理人に支払うことにした。金額については、総務委員会、事務局と今後協議し、決定していくこととした。

(7) その他

ア 中曲瀬強化委員長より、次年度の高校1年生大会について、インターハイ開催直前のため、中止とすることが報告された。

イ 尾前理事より、鹿児島レブナイズのホームゲーム(2月21, 22日)の運営ボランティアについての依頼があった。

ウ 木佐貫専務理事より、3月17日の鹿児島レブナイズホームゲームの県協会としての協力を仕方についての報告があった。

エ 会長より、インターハイ・国体・全国障害者大会の競技力向上, 大会運営の充実に向け, 引き続き一体となって取り組んでいくように要請があった。